

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570400269		
法人名	有限会社オアシス		
事業所名	グループホーム ファミリー・オアシス		
所在地	宮崎県日南市戸高4丁目1-3 (電話) 0987-23-6117		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年7月31日

## 【情報提供票より】(平成20年5月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤3人,	常勤換算9.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	～3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年5月12日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2	要介護2	1		
要介護3	3	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85歳	最低	72歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛泉会日南病院、山元クリニック、森歯科、山元病院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長と管理者を中心に職員が一丸となり、地域に根ざしたグループホーム作りに向けて積極的に取り組んでいる姿勢が伝わってくるホームである。特に、栄養管理面や職員教育に力が注がれており、職員自身も向上心が強く、サービスの質の向上に向けて計画的に研修等にも参加し、日々研さんされている。独自に作られた多種の介護マニュアルの完成度も高く、広報紙やそれぞれの家族への定期的な便りも工夫されている。ターミナルケアにも力を入れており、先駆的なグループホームとして今後に期待ができる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題は、すべて内部で検討され、改善に向けて努力されており、利用者が安心して生活できるよう全職員が同じ目標を持って支援する姿勢が随所にかがえる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、全職員で取り組み、現状を分析・検討し、職員のレベルアップに力を注ぎながら、サービスの質の向上に向けて日々努力されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2か月ごとに毎回テーマを掲げ開催され、それに沿った参加メンバーと率直な意見交換が行われている。市や地域包括支援センターに加えて、社会福祉協議会等とも連携をとりながら積極的に関係を深めようとしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者一人ひとりの家族便りが毎月作成され、それぞれの生活の様子が写真入りで家族に報告されており家族から好評を得ているが、家族からの意見や情報を収集する面で再考していただきたい部分がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	福祉祭りや文化祭などの地域行事や交流会には積極的に参加し、常に地域を意識しながら親密な関係作りに向けた努力がなされている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざしたグループホーム作りという視点から事業所と地域の連携を重要視し、利用者が安心して地域と共存していくための独自の基本理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員全員参加のミーティングの中で、理念と実践に向けたテーマを掲げ、目標実現に向けての話し合いが行われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の納涼祭、福祉祭、地域祭、生涯学習の発表会、いきいきサロン等に参加し、保育園との交流会の席を設けたりして、常に地域との接点作りに努力されている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を踏まえ、課題となった項目は即時改善、解決の方向で対処されている。自己評価については、全職員で取り組み、内容や結果を分析・検討すると同時に、職員の観察力アップに重点を置きながら前向きに取り組まれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回違ったテーマを掲げ、参加メンバーも地域の多種多様な方々を巻き込み率直な意見交換を行うなど、先駆的な取り組みがなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や地域包括支援センター以外に社会福祉協議会を巻き込みながら、連携強化を積極的に図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時ごとの報告に加え、利用者一人ひとりの日常生活が記載されたスナップ写真入りの便りが毎月作成され、家族等に配布されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の率直な意見を傾聴するために、カンファレンス時に家族の来所をお願いしたり、利用料金を振込みにせず持参する形をとる事で家族とのコミュニケーションの場を設けているが、家族からの相談や苦情はほとんどない。	○	家族それぞれが持っている悩みや相談事を収集するためにも、それぞれの家族同士が意見や提案ができるような雰囲気作りや、場面設定を工夫していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経験豊富な職員が多く、施設長と職員間の信頼関係が構築されており、離職者が少ない。利用者と職員のなじみの関係を重視した支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的な研修派遣、各種マニュアルの整備、職員の資質向上のための情報収集などが確実に実践されており、積極的な職員育成が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との地域ネットワーク作りや勉強会、相互研修会を率先して行い、サービスの質の向上に励んでいる。今年度は、地域グループホームの活性化を目指し、施設長が中心となり活動中である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が会いに行ったり、家族や入院先から情報を収集するなど、段階的な支援の工夫を前向きに検討し、努力をされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	近場に農園等を作って収穫した作物を利用者と一緒に加工するなど、随所に利用者と職員が協働する場を設定することで、共に支えあう関係作りが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の表情や行動を常に観察して訴えや要望を傾聴・推測するなど、それぞれの意向把握に努力されている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望等を踏まえ、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを定期的に行い、自立に向けた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、家族や利用者本人の要望を取り入れながら3か月周期で行われている。日々の状況によっては随時計画見直しが行われ、介護計画が作成されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や送迎支援のほか、地域の1人暮らしの方を対象に、ホームにて料理講習会等を実施して食の勉強会を行うなど、多機能性を生かした支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医となっており、24時間連絡体制の確保もできている。また、定期健康診断や往診等も可能な支援体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアに関しては、入居契約時の段階で本人や家族の意向を書面で確認するなど、積極的に取り組まれている。終末ケアのマニュアルも作成されており、実際に3～4名の方の終末ケアを行った実績がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム独自で作ったプライバシーに関するマニュアルをもとに、利用者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、日課に合わすことのできない時は無理強いせず、職員間で連携をとりながらその思いに即した支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立が立てられ、利用者と職員と一緒に調理、配膳、片づけ等を行い、全員で同じ食事を楽しんでいる。食事時のさりげない声かけやサポートが細やかである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、昼間の時間帯に計画されているが、要望があれば毎日でも利用可能な体制がとられている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日課の中に歌や体操、娯楽などを組み入れたり、利用者一人ひとりに役割をお願いするなど、毎日の生活に張り合いを感じていただけるような場面作りがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、買い物やドライブ、畑仕事など外出の機会を多く組み入れ、実践されている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されておらず、職員の見守りを強化する事に対応しているが、階段の出はり口は危険防止等のため施錠されている。また、日中は階下の共用フロアにいることが多いため、利用者によっては居室に鍵を掛けておきたいとの申し出があり、チェーンに南京錠がしてある部屋がある。	○	居室外側に鍵があるという状況は外部者からの印象はもちろん、利用者間にも心因的に影響を与えかねないので、工夫を検討していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自の防災マニュアルが作成されており、2か月ごとの自主防災訓練や年1回の消防署参加の総合防災訓練が行われている。地域や家族にも参加、協力を依頼している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に最新の栄養関係情報を取り入れながら、利用者一人ひとりに配慮した献立が作られている。水分確保のために各人専用のペットボトルを利用して補給工夫をするなど、細かい支援が随所に見られる。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアにはソファコーナー、畳コーナーが設けられ、利用者が自由に過ごせるような配慮が見られる。また、居室フロアには、個々人の日常の様子や行事等の写真がストーリー仕立てに展示しており、利用者が落ち着ける雰囲気作りが図られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品々を居室に持ち込める体制になっている。利用者のこれまでの生活スタイルに合わせたなじみの物の搬入、配置、装飾を家族にお願いしている。		

※  は、重点項目。